

Special Interview

開院のきっかけは突然に

森下「私はもともと、鍼を自分の仕事にしようとは思っていませんでした。お稽古事を習う感覚で入学したのです。でも勉強を始めると、とても奥が深い。最初の軽い気持ちなんて、あっという間になりました」

竹内「実家に帰ると鍼に関する資料が置いてあったり、姉から鍼の話を聞いたりするうちに、私も興味を持つようになりました。手に技術をつけるのもいいな、そう考えて私も学び始めたのです」

森下「妹は卒業後すぐ森ノ宮医療学園附属診療所に勤め、その後は個人病院でずっと鍼に携わり、私は家族や友人に鍼治療をしてきました。ずっと仕事にするつもりはなかったのですが、2人で開院しようと意見が一致して」

竹内「きっかけは実家のリフォームです。1階が空いている、両親のそばにいてあげられる。それならこの機会に私たちの鍼灸院をここで開院しようと、去年の夏に決めて、11月にオープンしました」



鍼を打つ、話を聴く

森下「私たちがめざしているのは、女性の心身を癒すこと。鍼の技で身体の疲れをほぐし、患部を治療するだけでは癒しにならないと考えています。メンタル面で疲れている人が多いですから、生活や仕事の話もじっくり聴いてあげる。症状の背景を知ることもなり、それが次の治療や確かなアドバイスにつながるのです」

竹内「治療後は患者さんといっしょにお茶を飲みます。夜遅くまで話し込んでしまうこともしばしば。自分のことを語りたがらない人も、女性同士ということもあって次第に打ち解けてくれます。気分が明るくなったわ、と言っていただけの時は嬉しいですね」

森下「しばらくは時計も置かませんでした。患者さんが時間を忘れて治療を受けられる、隠れ家のような鍼灸院でありたいと思っています」



※ 大阪鍼灸専門学校(3期夜間部) 昭和52年卒

森下より子先生

※ 大阪鍼灸専門学校(16期夜間部) 平成2年卒

竹内千雅子先生

※現 森ノ宮医療学園専門学校

ゆっくり焦らずマイペースで

竹内「姉も私も勤めがありますから、治療は午後6時～午後9時までが基本。土・日曜は午後1時からです。患者さんになるべく重ならないよう、そしてゆっくり癒しを受けてもらえるよう予約制にしています」

森下「ほかに仕事を持ちながら経営するのは大変でしょうと患者さんにも言われますが、毎日に変化があって楽しいです」

竹内「それに、治療院や病院にはそれぞれ患者さんのカラーミたいなものがありますから、これからどのような方が来られるのか、どのような治療院になっていくのが楽しみです」

森下「私たちはまだ開院したばかり。早く軌道に乗せようと焦るのではなく、ゆっくりと、私たちのペースで経営していきたいと思います」

竹内「患者さんと治療者との関係だけではない、アットホームな雰囲気はいつまでも維持したいですね」

